

平成28年度 第1回宇和島市総合教育会議会議録

- 1 開催日時 平成28年7月7日(木) 9:00~11:15
- 2 開催場所 宇和島市役所 602会議室
- 3 出席者 宇和島市長 石橋寛久、教育長 織田吉和  
教育委員 高山俊治、廣瀬孝子、木下充卓、弓削由美子

副市長 三好伊佐夫、笹山誠司

教育委員会事務局

教育部長 上田益也、教育総務課長兼学校給食センター所長 横山泰司  
教育総務課 課長補佐 土居弘、教育総務課主任 崎山泰慶  
学校教育課長 野田克己、学校教育課 課長補佐 西田一洋  
生涯学習課長 寺尾利弘、生涯学習課 課長補佐 富田満久  
文化・スポーツ課長 松本隆夫、人権啓発課長 山崎 崇  
学校給食センター所長補佐 土居広典

1. 開会	
上田教育部長	<p>ただいまから、平成28年度第1回宇和島市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>本日の進行を務めさせていただきます、教育部長の上田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>会議にあたりまして、皆さん方には、携帯電話をお持ちの方はマナーモードに切り替えていただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは開会にあたりまして、石橋市長よりご挨拶申し上げます。</p>
2. 市長あいさつ	
石橋市長	<p>皆さんおはようございます。今日は早朝より総合教育会議の開催ということでお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。私は今日はやや体調はあまりよくはありませんけれども折角の機会でございます、積極的な意見の交換ができれば大変ありがたいと思っております。今回、議会が終わったんですけども、議会の中でも18歳以上、いわゆる高校生の投票権の問題、それから県の方針等で質問がありました。大変難しいところで、私としても今回の投票率どうなるのかなと、先般九州でやったところでいくとやはり低いかなということも思ったりもいたしております。あと先生方の現場では違反者を出したら大変だということもあるんでしょうけれども、一方であまり規制ばかりしていると何もできないというところで投票率の低下を招くのではないかとことも心配されますけれども、今後定着していくんだらうと思っております。高校のところですから直接我々には関係ありませんけれども、やはり選挙制度は国民にとっては大きな権利の行使でもありますし、是非とも投票率が上がりま</p>

	<p>すように御協力をいただけたら大変ありがたいと思っております。</p> <p>さて、本日の総合教育会議、申すまでもなく国のほうで各自治体が設置をなささいということで義務付けられております。このような中で我々としても昨年から皆様方の御協力を得ながら数回の会議をやってきたところですが、そのあたりにおいては、宇和島市の教育大綱の策定、そしてまた、この総合教育会議の運営の要綱とか傍聴要綱等の制定も行ってきております。今年が一番大きなテーマは教育振興基本計画の策定ということになるんだろうと思うんですが、後ほど担当のほうからも説明があると思っております。</p> <p>折角の機会でございます。私としては先ほど申し上げましたように、宇和島市の子どもたちの教育が少しでも前に進むように皆さんの御協力を得ながらやっていきたいと思っておりますし、今年には特に、私の独断に近い感じで教育予算というのを自由に使えるところを増やしております。校長先生等の意見もあって、そこも取り入れながらということですがけれども執行をしなかったら折角予算をつけたのに残を残したのでは私としても情けないという思いもありますし、そのためのリミットというのは今月 7 月だろうと思っております。教育委員会の担当者も来ておりますけれどもその言葉を無駄にしないように是非ともトライをしていただくということを、第一義に執行というところを決めるところは決めてやっていかなければいけない時期だと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。その点につきましては、また皆様方の御意見ありましたら伺っていききたいと思っております。</p> <p>最後になりますけれども、この会議が有意義な会になりますことを心からお願ひ申し上げまして私の御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
<b>3. 教育長あいさつ</b>	
上田教育部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、織田教育長、ご挨拶をお願いいたします。</p>
織田教育長	<p>あらためまして、おはようございます。</p> <p>私のほうは昨年の 9 月 28 日に教育長に就任させていただいて以来、重点課題として 2 つのことを話してきました。その一つが学力の向上です。あとで少し触れますけれども市内の子どもたちの頑張りが結果として少しずつ上がってきていると受け止めております。今年度、今も市長の御挨拶にありましたけれども、市長の御理解をいただいて放課後の補充学習に予算をつけていただきました。さらに基礎学力の定着につなげていきたいと考えております。もう一つは郷土を愛する心情を育む教育の推進です。就任したタイミングが秋だったことでもありますけれども伊達 400 年祭に関連したイベントがあったり、吉田町の秋祭りのお練り等々、もっともっと学校現場では子どもたちに郷土の歴史とか偉人、文化財等について学ばせる機会を計画的に増やすべきだと考えました。このことを市長は私以上に強い思いを持っておられるようで、市長部局と連携を進めていきたいと考えているところです。ここで明るい話題を 3 点ほど提供さ</p>

	<p>せていただきたいと思うのですけれども、すでに皆さん新聞等で御存知のように一つ目は城南中学校が同じ学校名のよしみで熊本市立城南中学校へメッセージを届けたという記事を読みましたけれども、その学校のホームページでは宇和島から元気・勇気を届けてもらったということが出ておりました。また、つい最近では城東中学校のサッカー部3年生の9名が熊本県の御船町を訪れてボランティア活動をしたという記事も出ていました。二つの件いずれも生徒会とか生徒が積極的に取り組んだという点を評価したいと思います。3点目ですけれども最初に述べました学力の向上が見られるということですのでけれども、この4月に例年あります全国学力学習状況調査とは別に CRT というテストをしておりますけれども、これはわが国で最も多く実施されている標準学力検査ですが、この結果として小学生は、国語、算数については全国平均を上回るというような結果も出ておりました、学力というのは一朝一夕につくものではありませんけれども、地道に取り組んでいる結果が少しずつ上向きになっているということをお知らせしておきたいと思います。この件についても先ほど市長からもありましたけれども、議会では多くの議員さんから教育に関する一般質問をいただきました。それだけ市民の方の教育に対する関心の高さだと受け止めております。最後になりますが、今日の会議で今後の取り組みが明確化、重点化されればありがたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。</p>
<p>上田教育部長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ここからは、宇和島市総合教育会議運営要綱の規定によりまして、市長のほうに進行をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p><b>4. 協議事項 (1)</b></p>	
<p>石橋市長</p>	<p>それでは規定に従いまして、私のほうで進行を着座のままでさせていただきますので御了承いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、早速協議を進めて参りたいと思います。</p> <p>まず、1番目の宇和島市教育振興基本計画（仮称）の策定についてお諮りいたします。まず、教育総務課からの説明を求めます。</p>
<p>土居教育総務課課長補佐</p>	<p>教育総務課課長補佐の土居と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>私のほうから、宇和島市教育振興基本計画の策定につきまして、御説明いたします。</p> <p>この計画につきましては、具体的な計画を定めることにより、本市教育行政をより推進していくため、本市教育行政の中心的な計画として、新たに策定することとしているものでございます。</p> <p>まずは、進捗状況から御説明いたします。現在、各課担当者から具体的な計画内容があがってきており、これをとりまとめながら計画を作成している最中でございます。</p> <p>今後、この具体的な計画内容がまとまり次第、各課と再度協議しながら当該</p>

計画を策定していくこととしております。この策定にあたりましては、当然、教育委員会定例会等にて教育委員皆さま方の御意見もいただき協議しながら策定していくこととしております。

まだ、教育委員の皆さま方と協議する前段の協議資料として作成している段階でございます。今回配布しております資料は担当者レベルで作成し、内容が精査されていないものであり、これから説明いたします「計画の骨格」及び構成についての説明資料ということで御理解いただきますようお願いいたします。

それでは、計画の構成や概要について御説明いたします。

まずは計画の構成について御説明いたします。資料1を御用意ください（A4横向きの右上に資料1と書いている資料です）。

この資料の表紙をめくっていただければ裏面に目次が出てきますので、こちらで御説明いたします。

第1章では、「計画の基本的事項」としまして、「策定の趣旨」や「計画の位置づけ・期間」などを記載しております。

第2章では「本市教育の現状や課題」を明記することにより、この課題を解決するためにはどのような施策が必要なのかを導くものでございます。

第3章では、「本市教育施策が目指すもの」を記載し、この目標に向かって具体的にどのような施策を行っていくのかを導くものでございます。

第4章では、「政策・施策」を分かり易く体系化したものを記載し、第5章で「計画期間内の具体的な取り組み」について記載することとしております。

そして、第6章では「計画の推進方策」について記載しております。

このような構成を考えております。

それでは、ここから計画の内容について御説明いたします。

資料の1ページを御覧ください。

第1章「計画の基本的事項」中、1番目の項目の「策定の趣旨」の下から2行に記載しておりますが、本計画は学校教育分野だけでなく、社会教育分野も含めた、本市の教育振興のための施策に関する基本計画となるよう策定しております。

2番目の項目の「計画の位置づけ」に記載しておりますが、この教育振興基本計画につきましては、教育基本法第17条第2項に「地方公共団体は、国の教育振興基本計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努めなければならない」とされております。努力義務の規定ではありますが、当市においても、「第一次宇和島市総合計画」や昨年度策定いたしました「宇和島市教育大綱」、毎年内容の見直しをしております「宇和島市教育委員会教育基本方針」と、これらに基づきまして、教育行政の推進に努めているところでございます。しかしながら各種課題を解決するため、より具体的な計画とすることで、当市教育行政の中心的な計画として策定しているものでございます。

そのため、教育に関する計画が複数存在することとなります。そこで、今回説明しております教育振興基本計画がどういう位置づけとなるのかを図で示しておりますのでご覧ください。まずは本市のまちづくりの指針であります「第一次宇和島市総合計画」や、昨年度の総合教育会議にて策定されました「教育大綱」との整合性を図りながら、国の教育振興基本計画を参酌して策定するものでございます。そして、本計画に基づきまして、「宇和島市教育委員会教育基本方針」や「本市教育分野に係る各種個別計画」が策定、修正されることになるものでございます。

ここで「教育振興基本計画」と「教育大綱」との関係を補足いたしますと、図では同列として記載し、整合を図るというように記載しております。

まずその根拠法であります、「教育振興基本計画」は「教育基本法」、「教育大綱」は「地方教育行政法」でございまして、「教育基本法」が上位法にあたります。法律の組み立てからは、地方教育行政法の上位法であります教育基本法を根拠とします「教育振興基本計画」のほうが、地方教育行政法を根拠とする「教育大綱」より上位に位置づけられるようにも思われますが、文科省の示しておりますQ&Aによりまして、「新たに大綱を策定した場合において、その内容が既存の教育振興基本計画等と大きく異なる時には、新たな大綱に則して当該計画を変更することが望ましい」との記述もございまして。そのため、「教育振興基本計画」と「教育大綱」どちらが上位ということではなく、両方の整合性を図ることが求められているものと解されますので、このような位置づけとして記載しているところです。

資料の2ページを御覧ください。

3番目の項目として「計画の期間」を記載しており、平成28年度から平成30年度としておりますが、これは本市教育大綱の期間と合わせているものであり、今後協議するなかで調整したいと考えております。

資料の3ページを御覧ください。

第2章では、先ほども御説明いたしましたが、「本市教育の現状や課題」を明記することにより、この課題を解決するためにはどのような施策が必要なのかを導くものでございまして、ここにつきましては、現在、策定中でございます。

資料の4ページを御覧ください。

第3章では、「本市教育施策が目指すもの」を記載しておりますが、その目指すところの最上位を「基本理念」と位置付け、本市の総合計画や大綱の目指すところでもあります「新時代を拓き生き抜く人材を育成するうわじま」としてあります。

資料の5ページを御覧ください。

この基本理念の実現に向けた「人間像」をここで示しまして、そしてその「人間像」の実現に向けて、6ページになるのですが、各教育分野毎の「基本目標・基本的方向性」を定めて取り組むこととしてあります。

この6つの基本的方向性につきましては、本市教育大綱との整合性を図る意味

	<p>でも、本市教育大綱の「6つの振興方針」と同じ内容としております。</p> <p>資料の8ページを御覧ください。</p> <p>ここでは各政策から基本的理念の達成までの流れを体系図として記載しております。</p> <p>基本理念であります「新時代を拓き生き抜く人材を育成するうわじま」の実現に向けた「人間像」、そしてその「人間像」の実現に向けた教育分野毎の「基本的方向性」、そして、この「基本的方向性」毎に、その下に該当する政策を記載しており、この政策に取り組むという流れを示しております。この各「政策」は、「宇和島市教育委員会教育基本方針」を参考としております。</p> <p>資料の9ページを御覧ください。</p> <p>第4章では、先ほど御説明いたしました「政策」毎に「具体的施策」を分かりやすく体系化したものとして記載しております。</p> <p>資料の12ページを御覧ください。</p> <p>第5章では「計画期間内の具体的な取り組み」について、ここから17ページまでかけて記載しております。</p> <p>本来は、ここの各施策毎に、具体的な説明文がそれぞれ個々の計画として記載されるのですが、今回の御説明では計画策定の進捗状況及び計画の骨格・概要のみとしており、具体的な計画の説明文については省略しておりますので御了承ください。</p> <p>資料の18ページを御覧ください。第6章では「計画の推進方策」について記載しております。ここでは計画の推進や、計画の点検・評価についての方法を記載しております。</p> <p>計画の最後には「資料編」としまして、各種教育分野に関する計画等を掲載する予定として準備を進めているところです。</p> <p>冒頭にも御説明いたしましたが、本計画は策定途中でありますので、今回は進捗状況及び計画の構成・概要のみ説明させていただきました。今後、教育委員会等で協議・策定しまして、今後の総合教育会議にて報告させていただきます。</p> <p>以上で、宇和島市教育振興基本計画の策定についての説明を終わります。</p>
石橋市長	<p>説明が終わりましたが、何か御質問、御意見等ありましたらお伺いしたいと思います。</p> <p>構成だけで中身があまりないのでなかなか意見も出ずらいとは思いますが、はっきり言っていつ作るのか聞かせてほしい。</p>
土居教育総務課課長補佐	<p>今のところの予定では今年の11月を目標に策定を目指しているところでございます。</p>
石橋市長	<p>計画は作ることが目的となつてはいけないので、作ったものに基づいて何をきちんとやっていくかということを考えないといけないわけで、その時間もあるのかということをお私としては心配しています。</p> <p>作るとしたら中身については3か月の間には委員の皆さまには提示できるの</p>

	か。
土居教育総務課課長補佐	そのように策定していく予定です。
石橋市長	そういうことですが、他にないかありますか。
織田教育長	今の件については、月々に教育委員会があるので、その折々にある程度進み具合とか案の確認などをして 11 月の総合教育会議の時にはできあがったものを報告するというのでいいのかな。
土居教育総務課課長補佐	はい。
織田教育長	委員の皆さんもそれでいいでしょうか。
全教育委員	はい。
石橋市長	他ありませんか。では教育振興基本計画については後日また説明があるということで本日の協議はこれぐらいで終わりたいと思います。
<b>5. 協議事項 (2)</b>	
石橋市長	続きましては、協議事項の (2) 平成 28 年度教育費予算 (事業) について、担当課からの説明を求めます。
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	<p>教育総務課長の横山と申します。平成 28 年度教育費 (事業) については、予算所管課長より、それぞれ主な事業について説明させていただきますので、質疑等は、その後でまとめてお願いしたいと思います。以後の説明は着座にて失礼いたします。</p> <p>まず最初に、教育総務課分と学校給食センター分について説明させていただきますと思います。資料 2 の 1 ページ目をご覧ください。まず教育総務課分の主なもののみ説明をさせていただきます。</p> <p>まず、始めに学校施設の耐震及び改築事業でございます。今年度も 7 月に入りまして 3 ケ月が経過しておりますので進捗状況も合わせて御説明させていただきますと思います。まず耐震化の事業についてでございますが、立間小の屋内運動場、結出小の校舎、北灘小の屋内運動場については、いずれも先月末の時点で完成しております。北灘小についてはまだ検査が終わってないんですが、上 3 つについては竣工済みということでございます。これで、当初の耐震化計画であった校舎と体育館は、すべて完了ということで、まだ一部未使用化して取壊しをする建物は残っていますが、これらと、この後で説明する改築の建物全て完成した後の耐震化率でございますが、これは最終的には、92.45%になる予定でございます。残りは、そこにも記載しておりますが、寄宿舎の耐震化が残っております。これにつきましては今年度に耐震診断を実施し、診断結果により、耐震補強等を検討する予定でございます。耐震診断については両寄宿舎ともに、今月入札発注の予定でございます。</p> <p>次に、改築事業についてでございますが、これについては昨年度からの繰越又は、継続工事でございます。まず最初に宇和津小学校の本館の建替え工事でございますが、これについては 9 月頃に竣工の予定でございます。次に戸島</p>

小学校につきましては、Ⅰ期工事とⅡ期工事に分かれているんですが、Ⅰ期工事分につきましては、新校舎をグラウンド側に建てているんですが、この新校舎は同じく9月頃に部分引渡しを受けまして、引っ越しをし、運動会を行った後に、既存の校舎と体育館を取り壊す工事、それから新たな体育館の改築工事、給食棟の改築工事という形の順で工事を進める予定で、最終的には平成29年12月頃の竣工を目指しているものでございます。

最後に、津島中学校の校舎についてでございますが、これも、Ⅰ期、Ⅱ期とあるんですが、Ⅰ期工事の現在建設中の新校舎につきましては10月頃に竣工の予定となっております。その後新校舎に引越しを行い、既存校舎の取壊し及び外構工事に着手する予定でございます。以上で耐震・改築事業の進捗状況の説明を終わります。

次に、3番目の事業といたしまして、ICT整備事業として、今年度整備する予定のものについてですが、これは平成20、21年度に整備をして、WindowsXPからWindows7にアップグレードしたのですが、動作もかなり遅くなっているという現状がございます。校務用パソコン、学校の先生が日常使っている校務用パソコンの更新事業を、全部で450台を今年度更新する予定で、来月には入札をいたしまして、2学期以降に順次入れ替えをする予定で今事業を進めております。

4番目につきましては、学校統廃合事業でございますが、今年度予算措置されておりますのは、九島小学校と鶴島小学校の統合事業でございます。両校につきましては、平成29年3月末をもって鶴島小学校へ統合するための、統合準備協議会を4月に立ち上げをいたしまして、現在、両校の交流授業等、統廃合に向けた事業協議を進めているところでございます。

最後に5番目の事業といたしまして、先ほど市長からも説明がありました今年度特別につけた予算として総合戦略事業の一環として、「課外学習支援事業」がございます。これについては2ページ目の資料を御覧ください。この事業については、当初予算の編成の最終段階に、教育関係の予算を急遽市長の英断でつけていただいたもので事業の計画に学校等との協議の時間がございませんでしたので当初の案といたしましては、中学校区に1公民館で小学校は土曜日、中学校は夏休みに民間の塾や教員OBに委託して学習支援事業を展開するという案を一応お示ししたうえで予算をいただいたところでございました。今年度に入りまして、市長や校長会の理事の校長先生ともお話をいたしまして、事業内容を変更させていただいております。その内容が実施案というところを書いてあるところになります。内容につきましては、市長や教育委員の皆さまに事前に御説明させていただいておりますので要点のみ説明させていただきます。変更した後の事業案ですが、当初の公民館ですということではなくて、小学校が現在取り組んでおります放課後の補充学習内で支援をしましょうというところに予算の執行を変更しております。内容としましては①から④に書いております。まず①が人的支援といたしまして、放課後の補充学習の学習効率を高

め、なおかつ、先生方の負担を軽減する目的で支援員を雇用し派遣をしようというように考えております。

2 番目と 3 番目のハード面、ソフト面につきましては、ICT 機器について特区校を定めるなどして学力向上の施策を ICT の面からもサポートしていこうという計画のものでございます。

4 番目に学校の自主企画として、先生方の指導力向上のために外部講師を招いての勉強会の講師謝金の補助であったり、学校独自が学力向上のために事業を企画する場合は、その企画に対して経費の一部を補助しようとするものでございます。これにつきましては、先ほど市長がおっしゃったように予算執行がまず何よりでございますので 6 月議会が終わった翌日の校長会では校長先生に説明をし、夏休み中にハード面、ソフト面での整備については終わらせたいというように考えております。支援員については遅くとも 2 学期の補充学習には整備できるようにということで今事業を進めているところでございます。

また、一番最後になりますが、当初予定しておりました公民館における事業につきましても、郷土学習に限って、社会教育の分野で実施する予定でございます。この分野につきましては、教育委員会事務局の課長補佐級でプロジェクトチームを作って実施する予定でございます。夏休み、冬休み等を使って社会教育の分野で公民館等を使ってするという計画を今考えているところでございます。教育総務課の今年度の主な事業については以上でございます。

続きまして、給食センターについて説明させていただきます。1 ページに戻っていただきたいのですが、1 ページ下段のところに学校給食センター分ということで主な事業を 2 点挙げさせていただいております。まず 1 点目がこれも総合戦略の子育て支援策の一環として今年度も 4 月からすでに実施いたしておりますが、給食費の 1 食につき 100 円の補助事業でございます。これについては、内容としましては、保護費や就学援助費など、給食費を免除されていない宇和島市立の小中学校の生徒・児童の給食費を 1 食あたり 100 円補助して、子育て世帯の経済的負担を軽減しようとするものでございます。この制度については、近日中に給食の全体のアンケート調査に併せて、保護者に対してこの補助制度への意見についても意見集約をしたいと考えておりますので、次回の総合教育会議にアンケートの調査結果等については御報告できたらというように考えております。

最後に、これは以前から継続事業で取り組んでおりますが、地産地消推進事業としまして、地場産の食材を購入して食材として使うための補助として、1 月 1 人 50 円の補助と、一昨年からは年に 1 回、宇和海産のブリの切り身を食べましようという日を 1 日設けて 1 人分のブリの切り身を補助をいただいて提供しているという事業を今年度も継続するものでございます。いずれにしても地産地消ということで地元の食材を食べながら学んでももらう事業を今年度も引き続き実施するというところでございます。以上で、教育総務課及び学校給食センターの主な事業の説明を終わります。

野田学校教育  
課長

学校教育課長の野田です。座って失礼します。お手元の資料 3 ページをお開き下さい。学校教育課としては基本方針、重点目標をこのような形で本年度の事業を進めています。事業計画について主なものを説明させていただきます。

教育指導事業として、そこにもありますが標準学力検査委託料ということで教育長の挨拶の中にもありました CRT テストをこういう形で行っております。昨年度の分をどれだけ定着しているかということに特化していましたが、今年度からどこの時点で学力検査してもいいですよという形の学校の独自性を活かさせてもらっております。教育指導事業の下の方に交流学習会ということがありますが、鶴島小学校、城南中学校には大変広い地域から子どもたちが集まってくるので、こういった形で交流学習会を計画しております。4 ページをお開き下さい。一番上のところに教育支援員配置事業というものがありませんが、宇和島市に御理解いただきましてたくさんの支援員の予算、また今年度は 1 時間当たりの単価も上げていただき、たいへん支援員の方から感謝の声が聞こえております。発達障害の子どもたちであったりとか色々な支援を必要とする子どもたちへの人的支援ということで各校に配置をさせていただいております。一つ飛ばしまして姉妹都市交流事業として、千曲市との交流を継続しておりますが、今年度は 2 月に千曲市を訪問するようになっております。ちょうど大河ドラマの時期、内容とマッチしますので子どもたちにとっては、たいへんなるほどなというような地域かなと思っております。

4 番のところ、学校訪問を学校教育課としては行っていますが資料 5 ページをお開きください。28 年度の学校訪問はこういう形で 3 種類の学校訪問を行っております。5 月 25 日の番城小学校から 11 月 15 日の立間小学校まで合わせて 30 回の学校訪問を計画しております。現在 18 回終了し、本日午後下灘小学校に訪問することで 19 回目の学校訪問をさせてもらっています。この後紹介いたしますが、これも指導主事が 1 名増員になったおかげで学校訪問の数がこういった形で増やせることができたことをたいへん嬉しく思っております。

そして次の 6 ページをお開きください。指導主事が 1 名増員になったことで主な役割をこういった形で載せさせていただいておりますが、特筆すべきこととして、成果として、小学校の学力をなんとかまず県平均以上にしようということで色々な方向で、色々な方面で学校への指導を強化しているところでありますが、教育長挨拶の中にもありましたが CRT テストでは全国と比べて国語で 1 ポイント、算数は 4.5 ポイント全国平均を上回るようになってきました。まだ 8 月末に結果が出るまで何とも言えないところではあるのですが全国学力学習調査に向けての結果が期待できるのではないかなというように学校教育課としては分析をしております。不登校児童を昨年度よりも 10% 減らすことも 2 つめの大きな課題に挙げております。直近の調査として 5 月末の調査で平成 27 年度は小学校の不登校児童数は 10 名、これが今年度は 7 名、中学校では 5 月末に 38 名だったのが今年度は 24 名ということで 10% 減に向けて確実な成果が出ているのではないかなと思っています。

	<p>また今年度の大きな目玉としてICT支援として年間15回の学校訪問を予定しておりますが、現在で6回の学校訪問を終えることができ、既に夏休み中の計画も4回入っており、この15回は軽くクリアしながら次のステップに行きたいと考えております。</p> <p>また、この資料には書いておりませんでした、今年度の大きな活動として教職員の勤務時間の管理ということにも学校教育課は力を入れていきたいと考えております。6月にだいたいの勤務時間の様子をまとめてみましたが、思っていたよりも先生方の勤務時間が長いなということがその数字からも見てとれました。7月、8月、9月と先生方の勤務時間の調整、勤務時間の中でどう有効的に時間を活用できるかということ色々な立場で、色々な場所で指導していきたいと考えております。学校教育課からは以上です。</p>
<p>寺尾生涯学習課長</p>	<p>生涯学習課の寺尾です。座って失礼します。資料の7ページ、平成28年度予算、事業計画について、生涯学習課としては基本方針をたてまして、その基本方針に基づいて、4つの重点目標を立て事業を行いたいと思います。</p> <p>次に3の事業計画についてでございます。要点のみの説明になるんですが、公民館事業として年間を通して、各公民館で行います。事業概要については、生涯学習課が、生涯学習推進講師を募集しております。現在80名の方が各分野で登録を頂いています。その推進講師制度を各公民館で積極的な運用に努めたいと思っております。</p> <p>次に、主事の嘱託化から現在3年目を迎えています。今年度も主事への支援・指導に努めるとともに、異動後の主事へのサポートにも努めたいと思っております。市民の方に公民館がどんな事業を行っているか、周知のために公民館館報を発行しております。今後も奨励、広報活動の充実を図りたいと思います。予算としては、公民館事業予算として1億9千394万円です。</p> <p>次に結婚推進事業です。地域少子化対策重点推進交付金を利用し、市内4ヶ所で地域の特色を生かした婚活イベントを開催し、結婚を希望する地域の若者たちに出会いの場を提供するとともに、市民の結婚に対する気運の醸成を目指します。予算としては、100万円です。</p> <p>次に岩松公民館耐震補強事業ですが、26年度に吉田公民館を改築し、27年度に三間公民館の耐震改修を行いました、今年度は岩松公民館を耐震改修工事を行います。8月より6ヶ月間の予定です。予算額は2億1千797万9千円です。</p> <p>次に成人式事業ですが、例年どおり、1月2日に行う予定です。内容については、新成人による実行委員会を組織し協議予定です。予算額は115万3千円です。</p> <p>学校・家庭・地域連携推進事業ですが、学校支援地域本部、家庭教育支援、放課後子ども教室の各事業を継続的に実施予定です。予算1千152万8千円です。</p> <p>続いて8ページなんですが、生涯学習センター事業です。この生涯学習センター事業も基本方針に基づいて、4つの重点目標を立て事業を行いたいと思</p>

	<p>ます。事業といたしましては、市民大学、愛大探検隊、宇和島文学歴史講座、宇和島名作劇場、宇和島芸術祭です。今年の宇和島芸術祭は、10月25日(火)にゴルゴ松本さんを講師に招き、青少年健全育成の目的、命の授業について講演して頂く予定です。宇和島市PTA連合会、宇和島市人権教育協議会との共催事業です。うわじまフェスティバル事業の全体の予算は287万6千円です。市民講座については、パソコン講座を始め、資料にあります、7つの講座を行う予定です。予算は、27万5千円です。</p> <p>続きまして9ページ、10ページなのですが、中央図書館・吉田町図書館事業について説明したいと思います。中央図書館については基本方針に基づいて、7つの重点目標を立て事業を行いたいと思います。事業といたしましては、春4月のこどもの読書週間に新1年生に利用者カードを配布し、本を読むことに興味を持ってもらうことが目的で行います。ボランティアによる活動、読み聞かせ等を行い、障がい者、中学校、高等学校生徒のインターンシップも受入を行う予定です。住民の読書施設としての読書の推進を図りたいと思います。事業予算額は7万4千円です。これは事業のみの予算です。全体では5千196万3千円です。続いて吉田町図書館ですが、これも基本方針に基づいて、4つの重点目標を立て事業を行いたいと思います。事業といたしましては、中央図書館と同じで、住民の読書施設として読書の推進を図りたいと思います。事業予算額は2万5千円で、ほぼ事業費のみの予算です。今年度より岩松公民館の図書室を中央図書館津島分館に格付けされたため、市内読書環境充実のため、津島分館の整備も促進する予定です。</p> <p>最後になりますが、資料にはありませんが、生涯学習課では、今年度4つの重点取組施策を立てました、まず1点目が生涯学習推進計画の策定で、平成28年度に計画年度を終える生涯学習推進計画について、29年度から33年度までの5ヶ年計画を、28年度中に策定を目指します。2点目が公民館の耐震化、改築事業の推進で、長期財政計画にも位置づけられた公民館の耐震化及び改築を進めていきます。28年度には吉田地区の方針をどうするか、また他にできることはないか、全市的な視点から今後の方向性を検討したいと思います。3点目は総合戦略における結婚推進事業の推進です。年度内に5点を実施したいと思います。まず1点目は、うわじまMIセンター登録者情報のシステム化、2点目が結婚推進委員32名への研修を実施、3点目が公民館婚活講座を4ヶ所で実施、4点目が出会いイベントを宇和島商工会議所青年部と実施、5点目がNPO元気島プロジェクトが実施する海婚への補助です。</p> <p>そして最後、4番目の目標なのですが、駅前複合施設における図書館及び生涯学習センターの検討で、図書館及び生涯学習センターの機能及び運用の検討、駅前複合施設の実施設設計への参画、反映、今年度、以上4つの重点取組施策を生涯学習課全員で協力し達成したいと思います。以上が生涯学習課分についてです。</p>
松本文化・スポ	文化・スポーツ課でございます。座って説明させていただきます。11ページ

ーツ課長

から 16 ページの中の宇和島城保存整備事業と文化財災害復旧事業、城山管理事業、全日本大学選抜相撲宇和島大会の課題、うわうみだんだんマラソン・ウォークについて簡単に説明させていただきます。まず 11 ページですが、宇和島城保存整備事業、これは代右衛門石垣修理工事となっているんですが、式部丸石垣修理工事に修正をお願いします。この式部丸石垣修理工事のスケジュールといたしましては 10 月に入札、11 月には着工、2 月に竣工の予定でございます。先月大阪の中村石材さんの社長にお会いしまして今年度の予定を色々聞いたうえで今回のこのようなスケジュールになったものでございます。

それから、続いて文化財災害復旧事業でございまして、6 月の中旬以降に大雨・洪水警報等が発令されまして市内でも各所で土砂災害が起きました。それで宇和島城におきましても 6 月 29 日に宇和島城本丸下の帯曲輪の斜面が幅 5 メートル、高さ 12 メートルに渡って土砂が崩落いたしました。この崩落したところは現在実施している災害復旧箇所の隣接地でありまして、平成 28 年度の工事のスケジュールといたしましては 8 月に災害復旧工事の入札、9 月に着工、12 月に竣工の予定でございます。これは国の補助 10 分の 8 というところでございます。

続きまして城山管理事業、公有財産購入時に 2 億 4 千万円で丸之内の J T 跡地、面積が 3 千 737.51 平方メートル、坪数で言うと 1 千 130.59 坪を国の史跡として購入するものでございます。6 月の議会で予算が可決しましたことを御報告いたします。それで J T との今後のスケジュールといたしましては、J T の都合によりお盆までには売買契約の締結、8 月下旬には所有権移転登記の完了、遅くとも 9 月上旬にはお支払いができるように準備をしているところでございます。

次に第 33 回の全日本大学選抜相撲宇和島大会でございしますが、4 月の 29 日に市営闘牛場の特設土俵で団体戦 12 校、個人戦 92 選手が来て行われました。団体戦は東洋大が決勝で 3 連覇を狙う日大を 5-0 でやぶり、8 年ぶり 2 回目の優勝となりました。個人戦につきましては、日体大 4 年の南選手が優勝し、初のタイトルを手に入れました。それで課題でございしますが、一昨年、編んで土俵の俵を作っていたいただいた野村の方がお亡くなりになられまして、俵をつくっていただけるような技術者や請負業者などがおられるのかどうかということを探してまいりました。しかし、なかなかそういった方がおられないと言っていたが、たまたま地元ほうで高齢者の方たちが自分たちが挑戦してみようという方がおられまして、できるかどうか分からないが前向きに俵を編んでみようという方ができましたので、前向きに検討していただいているところでございます。

次に、うわうみだんだんマラソン・ウォークでございします。14 ページでございします。昨年度第 1 回目、初めてということでマラソン・ウォークを開催したんですけれども、今回第 2 回ということで予定としては平成 29 年 3 月初旬に開催する予定でございします。昨年度の反省を踏まえて、スポンサーなどの財源の

	<p>問題とか、運営に伴う地域や各種団体との協力体制、駐車場問題などまだまだ課題が多いと思いますが、一つずつクリアしながら宇和海地域をアピールできるうわみだんだんマラソン・ウォークにしたいと思っております。以上でございます。</p>
<p>山崎人権啓発課長</p>	<p>失礼します。人権啓発課の山崎です。17 ページをお開き下さい。人権啓発課では基本方針と 3 つの重点目標を掲げまして、下の表のような事業計画で進めております。主だったものを説明いたしますと、5月20日に宇和島市人権教育協議会の総会がありました。この中で予算額 400 万円となっておりますが、これは宇和島市の人権教育協議会への補助金の額であります。この表の中で予算額が 0 となっておりますもののほとんどは大会に参加する時のバスの借上げとかの費用については宇和島市の人権教育協議会の補助金の中から支払われますので 0 という形に表記上となっております。この中で市単独の事業もありますし、県の事業と連携しながら市民の人権教育・啓発を推進しているというところがございます。7月の7日、8日、まさに今日なんですけれども第63回四国地区人権教育研究大会が高知市で開かれております。宇和島市からは教員、行政職員それから各団体 29 名の方がバスを貸切り参加をしております。それから 8月6日にハンセン病問題を考えるフォーラムということで、コスモスホール三間で開催されるんですけれども、これはもともと主催が愛媛県人権対策協議会の土曜講座の一環で開かれるもので、それに対して開催地である宇和島市が協力して開催地の活動報告をするようになっております。それから8月の12日に津島町福祉会館で寿納涼祭がありますけれども、宇和島市がもっております 3 つの隣保館、番城福祉会館、三間町隣保館、津島町福祉会館、それぞれが地域の方との交流を目的に開いております。津島は8月12日、三間町は11月、番城福祉会館は2月に開催を予定しております。</p> <p>それからもう一つ大きな事業として人権を考える市民の集いというのがあるんですけれども、今回は和霊小学校にて、ハンセン病問題に関する小学生が大島青松園を訪問して学習をしておりますので、その報告でありますとか講演会を予定しております。市民の集いは旧市町毎に開催しております、10月8日が旧宇和島市、11月に旧津島町は津島中学校で、旧三間町はコスモスホール三間で三間町人権あったかコンサート、2月に吉田町人権をまもる町民の集いが開催される予定であります。</p> <p>あと、宇和島市人権教育協議会の主催で1月27日に、第11回宇和島市人権・同和教育研究大会が開催される予定です。</p> <p>あともう一つの表のほうですが、年間を通じて小地域人権問題学習会ということで、これは現在旧吉田町と三間町だけで行われておりますが、吉田は校区毎に行っており、三間は自治会毎に行っております。それから校区別人権・同和問題懇談会といいまして、全小・中学校で年1回人権に関わる授業を通して保護者に対しても人権研修会を開催しております。人権作品集「いのち」は5千700部発行いたしまして、予算としては79万3152円くんでいましたけれど</p>

	も、学校に通っている子どもたちの保護者に対して配布をしております。以上、人権啓発課からの説明を終わります。
石橋市長	以上で説明が終わりましたが御質問等ありましたらお願いいたします。
高山委員	一ついいですか。教育総務課分の3番目のICT整備事業のパソコンの450台、これはハードだけ整備するんですか、それともソフト面も含んでいるんですか。
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	お答えします。通常使う必要のあるofficeソフトはハードと込みで整備するものでございます。具体的に言いますとOSはWindows10、Microsoft Office16についてはハードと込みで整備するものでございます。
石橋市長	450台とどこかに書いてあったが、450人も先生はいるのか。
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	おります。平成20年度、21年度に購入した分が450台あり、もう6~7年経っておりますので、そこだけをまずは更新させていただこうと思っております。
石橋市長	子供がこれだけ減っていれば先生も相当減っているだろうと思っていたが、学校が減ってないから先生も減っていないのかな。数年前に450台であれば私の感覚で言えば300台も要らないのではないかと思うが。教職員は何人いるのか。
教育長	500人はおります。
石橋市長	各学校の教職員の数というのが資料の中に出ていたらと思ったが。
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	あとパソコンを整備する予定で50台くらいは残りあるので500人は超えていたと思うのですが。
織田教育長	子どもの減る割合とは異なります。
上田教育部長	教師だけで523人です。
石橋市長	450台ということなら、あと70台、80台は足りない。
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	はい。例年職員数も減ってきておりますので、あと50数台は来年度整備したいと考えております。この平成20年度、21年度整備分は特に古いので、この古いのから先に更新させていただこうと考えております。
石橋市長	入札で安くなるように頑張ってもらわないといけない。いつも思うがパソコンが高すぎる。行政のはなぜこんなに高いのか、私は4万円くらいのを使っているのに。他ありませんか。
廣瀬委員	補充学習支援員の件なんですけど、これは各校に一人ずつくらいの配置はできるんですか。

野田学校教育課長	<p>学校教育課です。それぞれの学校によって必要な数が違いますので、うちの学校は何人欲しいんです、そして何時間くらい欲しいんだということを再度調査しております。学校によっては学校の教員だけで対応するというような学校もありますので、支援員がつかない学校も小規模校にはある場合もあります。以上です。</p>
石橋市長	<p>このところは予算が書いていないんだけど、2 ページのところ、総額で 4 千万円で割り振りしていたんだっただけかな。</p>
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	<p>この 2 ページ分だけで一応市長と協議させていただいて、まずは 2 千 5 百万円分についてはここであげさせていただいて、残り 1 千 5 百万円については今後また協議して決めていきたいと思います。</p>
石橋市長	<p>まだ未定なのか。早く決めないといけない。12 月に決まって募集してやりますと言えば 3 月になる。</p>
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	<p>今言われていましたような人的支援のところとか、ハード面、ソフト面についても、ハード面も特区校を指定してということでございますので、先日校長会でこのお話をした時に、それだったらうちも手を挙げたいというような御意見もありましたので、できれば特区校を少し増やして予算を執行したいというようには考えておりますので、そこは再度調査をしたうえで市長と協議をさせていただいたらと思います。</p>
石橋市長	<p>それと私も公民館ぐらいで土曜や日曜にやって本当に必要な子どもが来るのかということで学校中心のほうに移行したのかもしれないが、今日の新聞だったか、松山市で早くから公民館でやっているみたいなことが書かれていた。どれくらい参加しているのか。近くにそういう例があるのなら調べて、良いのならそっちにも使うということはやってもいいのかなと思う。とにかく腹決めて 4 千万円は教育充実ということで使ってほしいということを私としてもあげているので、残りのないように。皆さんが最初に言ったのもそれに近いのかもしれないが、県下の例でいいと思われることをしているところは実績等を聞いて執行を早めるというところを是非お願いしたいと思います。</p>
織田教育長	<p>今の件に関していいですか。先日、虐待の会議が市長さん挨拶されて帰られた、あの時にですねいろいろな機関が来られていて、南予地方局の地域福祉課でしたか、その課の課長さんが来られていて今年も愛南町の生徒を対象に生活困窮者というか一人親家庭の恵まれない中学生徒に応募をかけて補充学習をするというようなことを計画されていて、その方が言われていたのは宇和島市が今回話としてあがっていることについて取り組むそうで、それを注視していますということで、少しその後話をしていましたら、今後県のほうもそのあたりなかなか議員さんの質問にもありましたけれども一人親家庭だとか生活困窮者を抽出してなかなか学力向上に向けての授業をしにくいので、そのあたりを情報交換しながら、とりわけ学力向上に向けて取り組んでいきたい分野ではあるということで皆さんにお伝えできたらと思います。</p>

石橋市長	<p>呼びかけ等難しいところもあろうけど、そういう面で、松山市のように1ヶ所で呼びかけてということになり、そこに寄った人から始めようということ、やって1人か2人しか来なかったというんでは、せめて10人以上くらいは来てもらわないと、松山市で来ているのなら、10人くらいなら宇和島では2、3人になってしまうかもしれないが、そこらを県下の状況をふまえて執行のほう、どのような方法がいいのか急いで実行してほしいと思います。</p>
木下委員	<p>教育総務課分の学校統廃合事業について、九島小学校が鶴島小学校と統廃合するというので5月に協議会が設立され地元の方々や保護者の方々と協議されている最中と思われませんが、具体的に橋もできたら統廃合ということは早くから言われていたんですけども地元の方々の、保護者や地域の方々の御意見、今の段階でどのような御意見がでているのかお教えいただきたいのが1点、学校給食センター分の地産地消事業の毎月50円の補助でどういうものが出ているのか、この2点教えていただけたらと思います。</p>
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	<p>まず、1点目の九島の統廃合についての経緯でございますが、本年の4月に九島架橋が開通しまして、それ以前から昨年末から九島に行きまして統廃合に向けての保護者と地元の説明会を地区ごとに数回重ねてきました結果、5月に統合準備協議会を立ち上げることができたのですが、その中ででてきた意見は概ねの話としては先ほど木下委員さんが言われましたように橋がかかったことに対して宇和島の学校に統合するということは保護者や地域の方の概ねの意見としては特に大きな反対というのはなかったです。ただ、一部の方は例えば、コミュニティスクール的なものとして御榎が取り組んでいるようなあいった形で学校が残せないかというような意見もなくはなかったんですけど、おおかたの意見としてはやはり小さな学校で生き延びるといふことの難しさについては、その対岸で既に統合しています小池・石応小学校を知っておりますので概ねの方の理解を得ることについてはそれほど困難な話ではなかったかと思っております。</p> <p>次に地産地消で毎月50円の補助をしている食材については多種多様なんですが。</p>
土居学校給食センター所長補佐	<p>学校給食センターの土居と申します。私のほうから御説明させていただきます。</p> <p>今課長から話がありましたとおり、各調理場それぞれ大きな調理場から小さな調理場まであるんですけども、当然調理場によって多種多様な食材になるかと思うんですが、魚であれば鯛であったり、きびなごであったり、鯰であったりそういうものを中心に使っています。また野菜につきましては三間であればキャベツであったりキュウリであったり道の駅からの野菜を使っています。また段畑のほうであればジャガイモだったり、時期によってはみかんであったりとか、そういう形でできるだけ地元の食材を活用するような方向で給食を作っております。</p>
木下委員	<p>ありがとうございました。</p>

石橋市長	野菜も使っているのか。
土居学校給食センター所長補佐	中央調理場の大きい分についてはですね、大量の食材を使いますので基本的には市場から地元の野菜を中心にに入れてくださいという形で宇和島近辺の野菜を中心にいただいているというのが実情でございます。ただ、三間については先ほど申し上げましたとおり、道の駅を利用していますので地元からの食材が多いという形でございます。また自校式につきましては地元の商店から入ってきますので地元の野菜等も入っていると思います。
石橋市長	私のイメージでは補助をつけた時の最初の時には魚が特に値段が高いんで、そのあたりを食べさすので50円補助してほしいということになって、魚には実際にはあまり使っていない、年に1回ぶりの切り身に使うだけなのか。
土居学校給食センター所長補佐	魚につきましてはやはり、今言われたとおり単価が高いということもありまして、なかなか頻りに地元の魚を使えてないという状況がございます。ただ、先ほど説明いたしました鯛の切り身とかに地産地消のお金を使っていたいでですね補助して、なるべく給食単価を下げているような状況もございます。また先ほど説明がございましたけれども昨年度10月から宇和島産の米を使うような方向で変更を行っております。
石橋市長	米については値段はあまり変わらないように思うが。
土居学校給食センター所長補佐	若干違います。
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	県内産米のブレンド米との比較になりますが、宇和島市産米と比較するとキロ30円の差があります。
石橋市長	キロ30円というと1食にどれだけ反映されるのか。ほとんど1円、2円の話ではないのか
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	1食にすればそういう形ではないかと思えます。
石橋市長	話は違うけど新給食センターになって給食を食べたことがない。教育委員さんは食べたことあるのか。
織田教育長	学校訪問でですね、おいしくいただいております。
石橋市長	私もおいしくなっていると思っていたが、どこかで聞いたらおいしくないと言われた。
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	私もそういう先入観をもって食べたんですがおいしいです。一度市長食べていただければと思います。

長	
石橋市長	世代間ギャップがあるんじゃないか。私たちはおいしいと思っても子どもたちはおいしいと思っていないのではないか。
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	まず私が思ったのは食器のイメージが我々の時はアルマイトの食器で無機質なもので見た目からかなり違うのでおいしく感じますので、是非市長も時間を割いていただいたら一緒に検食をしていただけたらと思います。
石橋市長	学校訪問でも津島のほうに行って、津島が一番遠いわけではないが、中央調理場から配食しているところで遠いところといたら遊子あたりが遠いのか。津島中学校へ近々行って、前の日くらいに言えば給食は作ってもらえるのか。
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	2日前に連絡していただければ大丈夫です。265円は持参していただきたいのですが。
石橋市長	はい。子どもたちにアンケートはとったことはあるのか。
上田教育部長	26年度に中央がオープンした年に旧市内の主な学校に直接聞きまして、答えもおいしいですという内容がほとんどなんですけれども、ただ津島地域だけは小学校が自校式ということもありまして、やはりどうしてもその辺に差があると思います。先日も学校訪問へ行った時に先生方をお願いしたんですが、そういう時は慣れてくださいと、愛情込めて作っているんだから、少々冷めているところは確かにあるんですが、食べてくださいというお願いをしました。
石橋市長	岩松小の子からはまずなくなったという声はあるのか。
上田教育部長	若干聞こえてきます。
廣瀬委員	自校式は学校の隣で作りますからおいしいです。
石橋市長	その他ありませんでしょうか。
廣瀬委員	図書館の津島分館についてなんですが、私も岩松公民館図書室の改修や運営に協力してきたものとして予算を是非減らさないようお願いしたいのですが、今までどおりでやっていただきたいと思っております。 それからもう1点、駅前の複合施設についてですけど、利用者の声なんかをどのように取り入れていらっしゃるのでしょうか。細かな色々な意見なんかはなかなか反映されにくいのではないかなと思うんですが。
寺尾生涯学習課長	最初の津島分館なんですが、今年度から中央図書館津島分館として、予算については昨年津島にずっとついていた予算がそのまま津島分館についており、減らしたり、一緒になったから削ったりする予定はありません。 あと駅前の分なのですが、これは利用者の声はパブリックコメントで、この受付はもう終わったんですが、図書館に限らずですが生涯学習施設の分の声はいただいたものがあります。それに基づいてできるところはできるように計画

	しています。
石橋市長	一応パブリックコメントはとっているが、声はほとんどあがってこないというのは、知らなかったというのが実際のところなのだろうと。造りだしたり、できたりした時には意見が出てくるのではないかとこのころはあります。大きな建物の構造とか大きな区割りはなかなか変えづらいところはあるが、運用等についてはまだ見直しもできるだろうと思いますね。というのは、まだ図面も正式にあがってきていない。ここでは担当が違うので。
廣瀬委員	竣工はいつですか。
寺尾生涯学習課長	平成 30 年度です。
石橋市長	他はありませんか。前半部分は特に予算が全然書いてないんだけど基本的には確保されているということでもいいのか。3 ページや 4 ページ。予算のところでは 7 ページの生涯学習課、公民館事業の 1 億 9 千 3 百万円は桁違いに大きいけど、これはなぜ大きいのか。
寺尾生涯学習課長	人件費が入っているからです。
石橋市長	他のところは入ってないと思うが。
寺尾生涯学習課長	人件費は公民館事業に入れており、他は入ってないです。
石橋市長	1 億 9 千 3 百万円のうち人件費はどのくらいあるのか。逆に言えば事業費はどの程度あるのか。せつかく予算を説明するのなら具体的にしてほしい。9 ページからはほとんど予算 0 となっているが、みんな 0 でやっているのか。
寺尾生涯学習課長	ボランティア等で実施している。
石橋市長	実際 0 でしているのか。中央図書館協議会に予算がついて他のが 0 というのが私としては会議が 0 で、実際にやるところでもし必要ならそっちにつけるべきと思うが。ついているのかついていないのかよく分からない。予算額が入っているところを見たら市長としたらどうなんだろうと。
廣瀬委員	読み聞かせなどはほとんどボランティアでしています。私たちも朝読書で行っていますけど、学校へ行くのは全部ボランティアで行っています。
石橋市長	予算なしでやれているのなら私としては別に問題ないが。 この資料の予算の計上の仕方というか、皆さんに知っていただくための書き方の統一というものを考えないといけない。例えば人件費を入れてふくらんでおります、他のところは 0 で何もありませんというけど人件費はなんらかあるはずなので。 あと、市民から聞かれるのが城山はいつ修理できるのか。
松本文化・スポーツ課長	市長がよく言われるようにイタチごっこみたいなもので。

石橋市長	今回は壊れたのか。
松本文化・スポーツ課長	壊れました。それは土砂ですね。
石橋市長	この前の大雨の総括には入ってなかったと思うが。要は恒常的にずっと直している部分が予算 2 千万円くらいか。宇和島城保存整備事業の 2 千万円分が毎年数メートルやりよるといところが膨らんでいると。そして、3 千 3 百万円ついているのは天守閣の 2、3 年前に崩れたところを直すということか。
松本文化・スポーツ課長	そのとおりです。
石橋市長	あそこはブルーシート貼って 3 年くらいになるけれど
松本文化・スポーツ課長	また、その横がまた崩れまして。
石橋市長	ここはいつ直すのか。
松本文化・スポーツ課長	予算のついた部分だけ直しています。
石橋市長	だからいつ、何年に直すつもりなのか。完成予定は。普通はあれだけの災害だからこれだけ壊れました。これを直すのにトータルいくらかかります。それを 1 年間でいくらずつつけて 3 年で直しますとか出そうなものだが。
松本文化・スポーツ課長	国の予算がですね、10 分の 8 がつかない年もありますので。
石橋市長	災害は最優先で普通はつかないといけないが。
松本文化・スポーツ課長	つかない年もあると聞いております。
石橋市長	それは教育委員会の怠慢、ひいては私の怠慢かもしれないが。災害の分はとらないといけない。災害復旧というのは国も最優先するはずなので、それを年限決めてこれくらいで直しましょうとすれば何年間の目標はでるだろうと。その上、恒常的にその石垣が膨らんでいるので少しずつ直していきましょうというのは私も何十年かかるのやら、生きていうちにはできないなと思うくらい仕方ないなと。それでも当初は 1 千万円であった、10 年くらい前までは。財政的にも少し余裕が出てきたのでスピードを早めようということで倍の 2 千万円ベースにしたと。これは災害とは違って城山の維持保存というところだけど、災害復旧は早くしないとけない。だから年限をきちっと決めて見通しを聞かせていただく、それに対して遅れている遅れていないを判断しなければいつまでたっても同じようになりますよと。心配するのは前の予算がいつ終わるか分からないから災害復旧もいつでもいいということにならないように是非担当者にはしっかりネジ巻いていただきたいというように思います。 あと、城山の管理事業で 11 ページ 2 億 5 千 5 百万円が高いが。

松本文化・スポーツ課長	JT 跡地の 2 億 4 千万円が入っています。
石橋市長	13 ページになると予算が書かれていないが、全然ついていないということはないと思うが、配当予算なので書いてないのか。
松本文化・スポーツ課長	そのとおりです。
石橋市長	吉田の人がこの資料を見たらうちらは予算が何もついてないと思ってしまう。
松本文化・スポーツ課長	事業名を見ていただいたらお金がかかっていないですから。ほとんどがボランティアです。
石橋市長	芸能祭は入っているのでは。13 ページの例えば吉田町の 2 行目、吉田町の芸能祭、10 月、これは金かからずには、一銭もかかってないということはないと思う。
松本文化・スポーツ課長	負担金や補助金の中から出ているのではないかと。
石橋市長	行政の補助金も市民文化祭の中でだして、そこからそれぞれ分けるのでは。
松本文化・スポーツ課長	はい。そこからそれぞれ分けますので。
石橋市長	<p>分かり易い予算の説明という意味においては色々分けたものを今度からは書いてもらいたい。三間、津島も同じように。うちらは 0 かと思われてしまう。増やしてほしいといっても 0 では言いようがない。あとはトータルいくらかかっているかという確認ができれば。</p> <p>あとは伊達博物館の説明が全然なかったけど。伊達博物館は基本的に、あれは伊達文化保存会か、あの何百万円か出しているのは。あれは 1 千万円だったか。</p>
松本文化・スポーツ課長	はい。
石橋市長	入館料も出していると思うが、もう止めているか。入館料の何割かを 3 百万円か 5 百万円くらい出して、その上に伊達の宝の補修というところで 1 千万円。これは今もしているのか。
松本文化・スポーツ課長	しています。展示替えの時などでも伊達事務所から学芸員が手伝いに来ていただくので、そういうものの報酬ということで。
石橋市長	だから、報酬ということで入館料が 5 百万円しかないうちの大半を向こうに渡しているという感じだろうと思う。そこらへんの整理を少し教育委員の皆さんにも知っていただきたいと、知っておいていただいたほうが良いと思う。各町にも吉田には国安の郷という立派な施設があるが。
松本文化・スポーツ課長	伊達博物館のこういう事業計画は伊達博物館協議会というのがあって、協議委員さん達が集まっているいろいろな年間の計画を立てられます。

石橋市長	その事業費のほとんどを市から出していると思うが。
松本文化・スポーツ課長	出しております。
石橋市長	事前に調整があるということか。ここに出ている3百万円というのは春と秋の特別展、これをいつまでも市が特別に出してするのかという、今のところできているのはイベントもあるので、今年もいやしの南予博ということで認めているが、来年は文化的なもの、全市的なものが集中するので。
松本文化・スポーツ課長	来年は本田館長も言われた刀剣展もやりたいということでもあります。
石橋市長	市としてそれをやるのかどうかということ。 そして最後、人権啓発については、これは教育予算、4百万円と40万円は。
山崎人権啓発課長	協議会に対する補助金になります。
石橋市長	人権教育の分野での協議会というのがあるのか。
山崎人権啓発課長	宇和島市人権教育協議会は市が推進する研修会とかしている会で、そういった会がある度に協議会を通じて加盟団体に対して参加を要請したり、松山市に行くときなどは協議会のバスの借上げ予算で参加したりしております。
石橋市長	教育予算であるからなかなか削りづらいというところで、あんまり厳しい査定には今までなっていないのだろうけど、教育委員さんは誰か入っているのか。
山崎人権啓発課長	もちろん人権対策協議会も人権教育協議会の加盟団体の一つではあります。
石橋市長	この教育委員さんは入っているのか。職員も教育長が入ったり、人権啓発課以外の職員が入ったりしているのか。
山崎人権啓発課長	もちろん教育長は協議会の会長ですので入っております。
石橋市長	それともう一つ、教育のほうと、あとは人権対策協議会というのがあるが、あそこの予算が今7百万円くらいだったか、今年減らして、800万円以上あるのか。
山崎人権啓発課長	対策協議会はちょうど1千万円あります。
石橋市長	予算について私ばかり聞いておりますが、他に聞いてみたいこととかありませんか。よろしいですかね。協議事項としては以上となります。
<b>6. 意見交換</b>	
石橋市長	あと、意見交換ということで、せつかくの機会ですので、何かございましたら、御発言いただきたいと思います。
木下委員	前回の総合教育会議で市長さんのほうから吉田町の小学校の統廃合のことについてお話があったんですけども、前は時間が足りなくなってしまうので、私のほうか意見を述べるのができなかったんですけども、その後、市

	<p>長さんとしてはどういうお考えをお持ちなのかと、私たちが教育委員として 2 月に教育長さんと一緒に佐賀県の多久市のほうで小中一貫校の全国でも先駆けとなった学校の視察に行ってきましたので、そのようなこともふまえて私個人としての意見にはなりますけれども吉田町の統廃合についての意見もありますけれども、市長さんの考えをお聞きして今後の吉田町の統廃合について意見交換をしたいと思います。</p>
<p>石橋市長</p>	<p>吉田町の特徴として、吉田小学校以外みんな 50 人前後の小学校が 4 つあり、来年くらいから立間小で複式学級が出てくる。宇和島市の学校の統廃合のあり方について小学校においては複式学級が実現するようなところは統廃合の対象ですよということが基本方針で決められているというところがあります。吉田もいよいよ大方針にふれてくる学校が現実にてでてくるというところで、どういう方法がいいんだろうと。選択肢として、一つは津島の下灘でしたように 4 つある今の小学校を一つにしてしまう、多分地域的に言うと吉田の場合は 4 つあるけれども吉田小学校に統合するのか、もしくはもう一つ別個に学校を、具体的には吉田中学校の横に校舎を建ててそっちに統合するかというところで、4 つの地区に残ることはまずないのかなと。下灘の場合は、今の下灘小学校を基幹として残す学校にして、これは既存としてあった学校ですけど、あとの 5 つの学校を廃校ということにしたわけですよ。吉田はどこを残してあと 3 つをとというのはなかなかやりづらいので統合するなら新しいところに校舎を建てるというのが現実的な選択になるのではないかなと。地域の学校はなくなるということを経験とイコールそういうことになるということが一つの選択肢。私が去年から言っているのが、例えば小学 4 年生に、3 年生まで残して 4、5、6 と上だけ統合したらというのが一つの案ですけども、学年についてはどうも学校の先生に聞いたら 4 年生よりも 5、6 を統合するならしたほうが授業の関係で、英語や ICT の授業を行うのであれば 5、6 を統合し、1、2、3、4 年生までは地域の学校に残す、そういう分校にするのか、そこはまだよくみてはないんですけども、学年を半分半分にするよりは高学年までというところでみたほうが良さそうだとこのところがありますが、これが一つの方法で、もう一つ、地域において一番いいのは今のまま残すというのも、これについては非常に悩みがあるというのは、語学の教諭を本格的に義務教育の中で小学校から入れてくるとなった時に、先生の配置をどんなに小さな学校でも十分にできるかという、今の小学校でも私は大丈夫だろうかと思うくらい今のところそういうことを試みながらでもやるということについて教育の問題というのは昔からあるわけですけども、語学と ICT 教育ですかね、ある程度教えるほうもそんなに人数がいるわけではないので、ある程度の 2、3 人の教室ではなくて 20 人くらいは最低必要だろうなというくらいの教室で教えながら、だから教えるほうも間に合わないところでの、そんなことは気にせずに国がいうのだからやるというのも一つの手だけれども教員としてのところで、3 つの方法の中でそれぞれのメリットがあると思うし、今までの教育に本当に必要な教育が十分にできるかと</p>

	<p>いう心配もしないといけないというところで、これがいいかなということをも うそろそろ話を煮詰めて地元にももっていく必要があるのだらうと思います。 もっていくとしたら私としては今言ったようなことをもっていきたいと、タウ ンミーティング以来やっていないので、そういうところでまず皆さんの御意見 を聞いてみたいと思います。平たく言えば今の 3 つの方法を合わせてその中か ら選んでくださいということがいいのかどうかも分からないが、中身が決まら ないところもあるのかなというところで、自分としては、ある程度こういうと ころの案だというところで示しながら話をしていかなければならないなどは思 いますけれど。総合教育会議の中である程度のどういう方法がいいのかとい うところを皆さんの意見を聞きながら私も腹を決めていくのがいいのではないか なと思います。これは宇和島でも現実的に九島というところもさっき出ました が統合というところがあり、鶴島に統合ということで多少の不満はあっても橋 ができて、統合については納得してもらっているのかなと。資料 3 の 8 ページ に細かく載っています。28 年の 5 月 1 日現在、今年の最新の数字ということ ですが、一番話題になっている吉田が真ん中のほうにありますけれども全校生徒 で吉田小学校が 181 人、奥南 51、喜佐方 45、立間 61、玉津 45 人なんですが、 これを見てもらったら立間小学校が 7 年後には 26 人に、今は結構いるよう ですが、急激に減っております。こういう数字がでています。他の所も 30 人、40 人ということになっているということで。</p>
木下委員	<p>多少ここ何年かの動向を見てもと転入してくる人もいますけれども も、それと一緒に家庭の事情ということで転出される方もおまして、結局割 とこれと同じような数字で推移している。特別大きく 10 人 20 人も増えてとい うような状況では今の段階ではないと。</p>
石橋市長	<p>5、6 年というスパンではこの傾向は変わらないと思うが、10 年 20 年とい ったら変わってくるかもしれない、特に私は吉田もみかんの跡継ぎが増えて子 どもが増えてほしいなというところもあって、学校を置いとくということで考え たらさっき言った 4 年生か 5 年生で割って低学年は残しておけば学校も残ると いうことで考えた方法ですけども皆さんどう思うか。</p>
木下委員	<p>私の地元地域にある喜佐方小学校の今の保護者 20 数人、このなかの十数名と 会う機会がありました。なかなか正式に決まったことではないので教育委員会 の委員として統廃合ということを直接的には言ってなくて、雑談の中で宇和島 市のほうも少子化に伴い津島町や旧宇和島市でも統廃合が進んでいる。吉田町 の統廃合について今の段階でどういう考えを持っているかということ保護者 に聞きました。これはあくまでも喜佐方小学校保護者ですが、できれば地域、 今のままの現小学校で卒業したいという子どもがある父親、喜佐方小学校に通 っていた父親もいますから、小学校低学年の若い保護者となりますと、やはり 子どもの数も減ってきているので、非常に先生方の目も届いてよく面倒を見て いただくんですけども、やはり一緒に小学校生活を送る仲間が少ない、友達 が少ない、やはり競争力、ある程度子どもたち同士が切磋琢磨していく環境</p>

	<p>をという意見が、私が思っていた以上にありまして、できれば吉田町で一つの学校にして、特に父親が地元出身で母親の場合は吉田地区外から吉田に来ている方があり、その母親の立場に立つと余計にそういう思いが強くて、ある程度の人数の中で子どもたちを育てていきたいという思いが、本当に私が思っている以上に多かったのが現実です。ただ吉田町全体の保護者の声を聞いたわけではなく、地元の喜佐方小学校の中では、それと一緒に学校が統合するのであれば、中学生になれば一つになるので吉田町全部で一つの学校に統廃合していただきたいという意見がありました。ただ、吉田小学校につきましては人数も多いですし、考え方は他の4つの小学校とは、ずれてくるのではないかなと感じております。あと、市長さんが言われました小学校の3年生までを地元の学校に残し、高学年を中学校になるのか、一緒にという案がありましたけれども、地元に残るといふことについては地域の方々にとってはうれしいことかもしれないかもしれませんが、5、6年生は一つにする、その中で中学校と同じ学校になるのであれば、できれば一緒に小学校の1年生から中学校の3年生まで一緒に学校で、その中で新しい授業にも対応できるような教育体制を作っていくのであれば保護者の方や地域の方も宇和島市のモデルの学校として構えていただくのであれば納得と言いますか、前向きに色々な面で責任を、子どもたちもいい環境の中で学習できるというのであれば、地域住民も理解というか、低学年だけでも地元の学校に通わした場合には先ほど言いましたように児童数が足りないですのでほとんどが複式の学級になってしまいます。複式が決して悪いというわけではないのですけれども、やはり複式学級になると先生の数も減り、トータル学校もどういう形になるのか本当に心配であって、分校となってしまうのではないかという心配もあるのではないかと思います。登下校、登校中は集団登校を6年生から1年生までしていますが、仮に1年生2年生の低学年になると、ある程度5年生、6年生の上級生の学年が面倒をみながら登校をしているのが現状です。歩いて学校に通うんですけれども低学年だけでの登下校ではなく、やはり上級生の姿を見ながら低学年の子は学び、保護者の立場からすると兄弟、低学年の時は別の学校へ、高学年の時はまた別の学校へと小学校6年の間に2つの学校に通うということは、学校の管理自体や学校行事もなかなか低学年の保護者だけでは困難だと思います。</p> <p>私個人としては小中を4、5制に分けるとかするのであれば、ある程度統合してその中で独自のカリキュラム、一つの学校で進めていくほうがいいのではないかと思います。できれば吉田小学校に全部集めてというのものもあるんですけれども、今ある吉田中学校の敷地内に新しい小学校、新しい施設の中で、中学校の連携を考えた統廃合がいいのではないかと、そうすることで地元の方の理解も得られやすいのではないかと今になってですけど思います。</p>
石橋市長	<p>親は、統合しても仕方ない、ある程度の規模の中で集団で競争しながら勉強させたいという思いが強いのかなと思うが。イギリスのEU離脱じゃないけど、若い人とお年寄りの世代間ギャップというか、地区の人はなかなか置いてもら</p>

	<p>わなないといけないというほうが強いのかなと。また、子どもたちのことを中心に考えてもいいのかなとも思うが。統合ということである程度、最低限親の希望はそういうところで急ぐんだったら正式に考えたほうが良いような気がするが、どうなるんだろうなと思うこともあります。</p> <p>公立ということで費用だけで考えれば、皆が吉田小学校に行ってくれば、多分収まるだろうと。</p>
木下委員	<p>宇和島市の水泳大会も吉田小のプールでしており、施設的には新しい部分もあるんですけども、心配なのは津波が起きた時にどうしても海に近いということでその辺も考慮しますと、中学校も標高自体は低いんですけども、新しい校舎を建てていただいて、その周辺に避難場所等もきちんと整備していただく住民の方々も理解していただくのではないかと個人的には思います。</p>
石橋市長	<p>そのほかの所はいかがですか、三間のほうは。</p>
高山委員	<p>吉田も三間もなんですけれども、この前、多久市に研修に行き説明を受けた時に、教育長から受けて一番印象に残っているのが、ずっと反対されていた人が小中一貫校ができて実際に入学式の様子をみたら変わって、応援するからなんでも言ってくれと言われるようになったという説明を受けて、小中一貫が吉田も三間も運営するのならいいのではないかなと、あと、さっき言われた4、5制とか小中一貫でやったら勉強の面でもいいのではないかと思います。</p>
石橋市長	<p>多久は小中一貫でも同じ敷地にできているのですか。</p>
高山委員	<p>はい。3ヶ所に。今、文科省が義務教育学校と言われていますが、10年先をいっています。</p>
石橋市長	<p>全国の小中一貫とは称するけれども敷地が同じところは半分くらい。それはやはり財政的な面、そして土地的な面ということくらいだろうと、名は一応一貫校とはしているけど、小学校のほうは離れたところにといいところが多いと。小中一貫校をやるとすれば同じところにやるのが、離れてやるなら小中一貫の意味がないように思いますが。</p>
高山委員	<p>広島の実市にも行ったのですが、小中一貫校を市内で全部しているのですが、同じ敷地のところがあって、そこだけは子どもたちの成績が上がるということで、別々のところではあまり意味がないのではないかと思います。</p>
石橋市長	<p>あとは小中一貫ということでやるとした時に、心配なのは吉田小学校がある程度やりたいといった時に、そこらの意見を聞いたことはないけど私もどうなのか、吉田のほうは知永から入ってくるので中学校まで行くと遠くなると、今は基本的にはやはりスクールバスで通わずからそれで通ってと言っても、なによりも小学校一緒にならなくてもいいという、ある程度吉田小は規模があるということでどうなのかなということはあると思います。</p>
木下委員	<p>実際、吉田小につきましては純粋な吉田地区だけではなくて、奥南地区の立目、牛川のほうからも吉田小学校へ通っていますので、人数的にも純粋な行政区割りだけでもない。ただ吉田小の保護者の意見は聞いていないので、今の段階では何とも言いようがないわけですが。</p>

石橋市長	女性のほうからは何かありませんか。
廣瀬委員	私も多久市に行かせていただき、小中一貫校について非常に効果もあがってきているということなので、宇和島市にもできればいいなと思ったところです。
石橋市長	多久市の市長は知っているが、人口は何人くらいか。
織田教育長	2万人強くらいです。7つの小学校と3つの中学校があったのを市内全部を3校にまとめて小中一貫校にしたということです。なかなか市長もやりてというか。その答申を受けて7、8年かけて25年4月に3校一斉に小中一貫を開始したということです。
石橋市長	中学校の統合も考えると、そのうち三間は中学校を維持できるのかと心配している。そこらをどう考えていくか。
弓削委員	小中一貫校というのはあまり馴染みがないというか、保護者が小中一貫校と聞くと、小中一貫校はいいのだろうかと思うのでは。多久市の小中一貫をみてみると、話し合いを結構されているようなので、その中で皆さんに納得してもらって。小中一貫校にしなくてもという声があっても小中一貫校の良さというのがあると思うので是非すすめていただきたいと思います。
石橋市長	小中一貫校の何がいいのか、私も分かりません。
織田教育長	4、5制というやり方もありますし、4、3、2と区切って1年生から4年生までは基礎期、5、6、中学1年までは充実期、中学2、3年は発展期みたいな感じで、地域の特色を活かした勉強を、小学校1年生から英語をするところとか、そういう思いきったやり方で、逆に言うところとちゃんとした理念をもって小中一貫をしないと、ただ一緒にしただけではいけないということもありますし、教職員のというか、私たちが行った学校はこの2.5倍くらいのフロアに小学1年生の受け持ちから中学3年の受け持ちまでいる広い職員室でしたけど、小中一貫にする理念というか、思いをきちんと校長などに対して進めないただ一緒にいるだけでは効果はあがらないと言われていました。
石橋市長	私が一番思うのは学校の先生の異動権がないところを多久市長はえらいと思う。県との連携もうまくやっているのだろうと。
織田教育長	そうですね。理解していただいていると。
石橋市長	校長を10年間は貼り付けてほしいというような、そうでないとなかなか2、3年で変わったのではうまくいかないのではと思いますが。
上田教育部長	すみませんが、次の会議がありますのでこのあたりでそろそろ閉めていただければと思います。
石橋市長	他に何かございませんか。
総合教育会議	特になし
<b>7. 閉会</b>	
石橋市長	それでは、以上をもちまして、平成28年度第1宇和島市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。